

認定こども園 浄念寺学園 総合保育計画 (1/4)

総合目標	<p style="text-align: center;"><u>1、親切（やさしい心）「和顔愛語」</u> <u>2、協力（なかよく）「和合精進」</u> <u>3、感謝（ありがとう）「報恩感謝」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の健全な心身の発達を図ることを指導目標とし、子どもたちが伸びやかに成長できるよう最もふさわしい生活の場でなければならない。 目標達成の為に保育に関する専門性を有し、家庭と緊密な連絡のもとに子どもの状況発達過程を踏まえ日々の保育を展開する。 仏の子として「強く・明るく・仲良く」伸びる。 個々を大切に、共に生き、子どもと家庭と園が共に育つ保育の実践を行う。
------	---

「まことの保育」課題

- ① いのちを大切にする（私とはなにか。他人とはなにか。）
- ② 私は他者とどのような関わりの中で生きていくか（集団と個の関係）
- ③ 叱ったり褒めたりするのはなぜか（道徳・倫理）
- ④ 望ましい発達を遂げるための環境

目標	礼拝の姿勢	感謝の心	聴聞	なかよくする心
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ののさま（仏様）を敬う心を育む。 合掌礼拝の姿勢を身につける。 ののさまはいつでもどこでもそばにいてくださる事を知る。 おしゃかさまや親鸞さまに親しみを持つ。 本堂前、親鸞さま像前での挨拶を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ごめんなさい」「ありがとう」が言える心を育む。 様々な命のつながりに気づき、“おかげさま”の心を育む。 生き物の命をいただくなど、生かされている命である事に感謝する。 	<ul style="list-style-type: none"> ののさまのお話を聞いて、優しい心を育む。 法話を聞いて、想像力を養い、豊かな感性を育む。 聞いたこと、感じたことを自分の言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 命はみんな繋がっていることを知り、友だちと関わりながら仲良く遊ぶ。 約束やルールを守ることの大切さを知り、一緒に活動することの楽しさを味わう。 生かされて生きること感謝の心が芽生え、互いに助け合って生活することの喜びや心地よさを味わう。
保護者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 園行事で保護者に宗教儀式の厳粛で荘厳な雰囲気を感じてもらおう。 「まことの保育」の意義やねらいを伝える。 園での習慣を家庭でも実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者と保護者の会話のなかで「ありがとう」「おかげさま」を伝える。 命をいただいていることに感謝し、食前後に手を合わせる事を伝える。 参観日や各行事で成長の喜びを語り合い、感謝の中で明るく元気に過ごすことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを敬う心を持ち、子どもの話やつぶやきに耳を傾け、子どもから学ぶことの大切さを伝える。 家庭でも、絵本などでお話を子どもに読んで聞かせるなど、親子の心のふれあいを深めてもらう。 家庭でも挨拶を進んでするよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの約束を自覚してもらい、家族みんなで守る習慣を身につけるよう伝える。 みんな等しく平等であることを知り、声を掛け合って育ち合う大切さを伝える。 全てのものに尊敬と感謝の心を培うよう伝える。

これらの達成のために、各クラスで以下の保育計画を実践します。

認定こども園 浄念寺学園 総合保育計画 (2/4)

5歳児クラス (ふじ組)

養護	《生命の保持》 ・健康に関心を持ち、生活に必要な習慣を身につけられるようにする。		《情緒の安定》 ・生活リズムに応じた活動内容の調和を図り、休息が取れるようにする。		
教育	《健康》 ・室内外の危険物、危険箇所、危険な行動を知り、気をつけて行動する。	《人間関係》 ・遊びや行事を通して友だちを応援したり力を合わせるこの大切さを知る。	《環境》 ・生活や遊びの中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。	《言葉》 ・人の話を聞いたり身近な文字に触れたりして言葉への興味を広げる。	《表現》 ・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・法話を聞いて、ののさまを敬う心を持つ。 ・合同礼拝や行事での作法を正しく行う。 ・歌の意味を知って歌い、お約束の内容を理解して唱和する。 ・行事の意義を知り、ののさまを讃える。	《感謝の心》 ・自分のわがままに気づいたときは、「ごめんなさい」と言う。 ・ののさまはいつでもどこでもそばにいてくださる事を知り、「ありがとう」と言う。 ・自然の働きを知り、命の繋がりに気づく。 ・生かされている命に気づき、なんでも美味しくいただくようになる。	《聴聞》 ・いつでもどこでも誰に対しても、優しい心が大切である事を知る。 ・法話を聞いて、他人の喜びや悲しみに共感できたり、痛みを感じ取れるようになる。 ・法話を聞いて、その内容に頷いたり、疑問を持ち問うたりする。	《なかよくする心》 ・互いに尊い命を生きている事を知り、敬い助け合って集団生活を楽しむ。 ・集団の中で自分の考えを述べ、他人の立場を考えて行動する。 ・遊びの中でルールを作ったり、役割を分担し、みんなが力を合わせて一つのを完成させる喜びを知る。 ・自分でできる手伝いを進んでする。 ・仏の子として敬い慈しまれ、自分で考えて過ごす。	

4歳児クラス (ゆり組)

養護	《生命の保持》 ・自ら体調の変化に気づく。 ・運動量が増し、活発に活動できるよう配慮する。		《情緒の安定》 ・多様な経験を通し自己肯定感を育み、自信や保育士への信頼を獲得できるようにする。		
教育	《健康》 ・自身の身体に関心を持ち、異常を感じたら保育士などに知らせる。	《人間関係》 ・友だちと共同で色々なものを使い、楽しく遊ぶ経験をしたり、大切に扱う事を知る。	《環境》 ・身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり試したりして工夫して遊ぶ。	《言葉》 ・保育士や友だちとの会話を楽しみ相手に伝わるように話す工夫をする。	《表現》 ・音楽に親しみ友だちと歌や合奏を通して一つのを作り上げる楽しさを味わう。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・ののさまを敬う心を持っておつとめをし、合掌礼拝する。 ・ののさまのお話を聞き、お約束を守る。 ・歌を綺麗な声で正しく歌う。 ・準備を手伝い、行事に進んで参加する。	《感謝の心》 ・自分が大切に育てられていることに気づき、「ありがとう」という。 ・自然の営みに触れて、大きな恵みに包まれていることに気づく。 ・食べ物の命をいただいていることを知り、「ごめんなさい・ありがとう」と言う。	《聴聞》 ・お話を聞いて、ののさまの優しい心を感じ取れるようになる。 ・法話を通して自分のわがままに気づき、他の人との関わり大切さが分かる。 ・法話を聞いて、その内容を自分のことばで友だちや家族に伝えられる。	《なかよくする心》 ・友だちの気持ちがわかり、思いやりの心を育む。 ・友だちとの繋がりを広げ、みんなで仲良く遊ぶ。 ・ルールを守って集団生活を楽しむ。 ・異年齢の子どもや地域の人たちに関心を持ち、関わりを広める。 ・仏の子として敬い慈しまれ、みんながってみんないいと思える。	

認定こども園 浄念寺学園 総合保育計画 (3/4)

3歳児クラス (きく組)

養護	《生命の保持》 ・基本的な生活習慣を身につけられるように援助する。 ・運動機能が高まるように工夫する。		《情緒の安定》 ・主体的な活動を促す環境を構成し、探索意欲が高められるように見守る。		
教育	《健康》 ・身の回りを清潔にし生活に必要な活動を自分でしようとする。	《人間関係》 ・友だちとの簡単なルールのある遊びをする中でルールを守る。	《環境》 ・身近な動植物に親しみ、生命の尊さに気づく。	《言葉》 ・友達の話の聞いたり、保育士に質問をしたり、イメージを広げて楽しむ。	《表現》 ・色々な素材や用具に親しみ、友だちと工夫して遊ぶ。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・気持ちを整えて心静かに合同礼拝に参加する。 ・背筋を伸ばして座り、お念珠を正しくかける。 ・歌やお約束をみんなで唱和する。 ・行事に参加する楽しさを味わう。	《感謝の心》 ・自分が悪いと思った時は、素直に「ごめんなさい」という。 ・身近な生き物やお花の命の尊さに気づき、大切にしようとする。 ・食事やおやつ時に命の有り難さを感じ、食前・食後のことばを進んで言う。	《聴聞》 ・ののさまのお話を聞いて、簡単な応答ができるようになる。 ・法話を聞いたり、絵本を見て、ののさまに対する想像を膨らませる。 ・ののさまのお話を聞いて、感じた事を自分の言葉で表現する。	《なかよくする心》 ・友だちや保育者と関わり、一緒に遊ぶ事の楽しさを知る。 ・身近な生き物やお花にも命がある事を知り、自分の命を大切にすることを学ぶ。 ・喧嘩になったときは、保育者の仲立ちにより相手の言い分をよく聞く。 ・仏の子として敬い慈しまれ、自分らしく過ごす。	

2歳児クラス (こぎく組)

養護	《生命の保持》 ・生活や遊びの中で自我が育つような関わりを持つ。 ・気候に応じて体調管理をする。		《情緒の安定》 ・子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく。		
教育	《健康》 ・生活の中で援助してもらいながら自分でできた喜びを感じる。	《人間関係》 ・生活や遊びの中で順番を待つなどの決まりがある事を知る。	《環境》 ・自然と触れ合う中で好奇心や探究心が生まれてくる。	《言葉》 ・生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。	《表現》 ・保育士や友だちと遊ぶ中で自分なりのイメージを膨らませながら楽しんで遊ぶ。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・落ち着いた雰囲気の中で、少しずつ合同礼拝に参加したり朝の挨拶などで合掌礼拝をする。 ・歌やお約束に親しみを持ち、一緒に歌ったり唱えたりする。 ・仏教行事に参加し、お寺への親しみを感じる。	《感謝の心》 ・日常の様々な場面で保育者を真似て「ありがとう・ごめんなさい」を言う。 ・身近な生き物に触れて、親しみを持つ。 ・食事やおやつ時、食前・食後の言葉を保育者と一緒に唱和する。	《聴聞》 ・法話を大切な話と感じ、相手の顔をよく見て静かに聞こうとする。 ・平易で楽しい内容の法話を聞いたり、絵本などを見て素直に喜ぶ。 ・ののさまのお話を聞いて、保育者や友だちと模倣遊びを楽しむ。	《なかよくする心》 ・身の回りに様々な人がいる事を知り、友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。 ・お花や小動物とも友だちとなってなかよく遊ぶ。 ・何事にも順番がある事を知る。 ・できることは自分でしようとする。 ・仏の子として個々の気持ちを尊重して過ごす。	

認定こども園 浄念寺学園 総合保育計画 (4/4)

1歳児クラス (ひなぎく1組)

養護	《生命の保持》 ・特定の保育士との関係が更に深まり、愛着関係が育まれるように接する。		《情緒の安定》 ・スキンシップにより、保育士との関わりの心地よさや安心感を得るように接する。		
教育	《健康》 ・身の回りの簡単な事を自分でしようとする気持ちが芽生える。	《人間関係》 ・保育士や友達に関心を持ち真似をしたりして自ら関わろうとする。	《環境》 ・好きな玩具や遊具に興味を持って関わり様々な遊びを楽しむ。	《言葉》 ・話しかけややり取りの中で声や言葉で気持ちを表そうとする。	《表現》 ・保育士と一緒に歌ったり手遊びをしたりリズムに合わせて体を動かして遊ぶ。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・保育者や年上の子どもを真似て自分も手を合わせようとする。 ・保育者や年上の子どもの歌唱に親しみを持ち、自分も歌ってみようとする。 ・保育者によるののさまの話を聞き、ののさまに親しみを持つ。	《感謝の心》 ・日常の様々な場面で保育者と一緒に「ありがとう・ごめんなさい」を言う。 ・保育者の愛情を受け、自分が大切にされている安心感を感じられるようになる。 ・食事やおやつ時に保育者を真似て食前・食後の言葉を言ってみようとする。	《聴聞》 ・保育者が優しい眼差しでゆったり話しかけるとき、その話を聞こうとする。 ・保育者に話しかけられる喜びと安心感を持ち、自分も話しかけようとする。 ・ののさまのお姿に親しみを持ち、「ののさま」と呼んでみたり指さしたりする。	《なかよくする心》 ・保育者との関わりを基盤にして、他の子どもへの興味を広げ、同じ遊びをしてみようとしていたり、一緒に過ごすことを楽しむ。 ・簡単な約束がわかるようになる。 ・仏の子として保育者に敬い慈しまれ、のびのびと過ごす。	

0歳児クラス (ひなぎく0組)

養護	《生命の保持》 ・人への基本的信頼感が芽生える。 ・一人一人の生活リズムが整うよう配慮する。		《情緒の安定》 発達過程などを的確に把握し、応対的なふれあいや言葉かけを行う。		
教育	《健康》 ・清潔になる事の心地よさを感じる。	《人間関係》 ・特定の保育士との関わりによって信頼関係が生まれる。	《環境》 ・安心できる人的及び物的環境の下で感覚の働きを豊かにする。	《言葉》 ・語りかけられることにより声を出したり、応えようとする。	《表現》 ・土や水等の素材に触れ全身で感触を楽しみ感性を育む。
まことの保育課程	《礼拝の姿勢》 ・保育者の膝に抱かれながら礼拝の雰囲気を感じる。 ・日常生活の様々な場面の中で保育者の合掌礼拝の姿勢をみて育つ。 ・保育者による日常的なお話や歌唱を聞き、安心と親しみをもつ。	《感謝の心》 ・保育者の「ありがとう・ごめんなさい」を聞き、片言で言う。 ・愛情豊かに抱きしめられたり笑顔で接することにより、愛されている喜びと安心感を感じられるようになる。 ・食事やおやつ時間に保育者が食前食後の言葉を聞き、片言で言う。	《聴聞》 ・保育者に優しい眼差しでゆったり話しかけてもらい、喜ぶ。 ・話しかけてもらうことで安心感を持ち、声などで応えようとする。 ・保育者を真似て「ののさま」と言う。	《なかよくする心》 ・親しみのある保育者との一対一の愛着心を基盤にして、他の子どもへの興味を広げ、関わってみようとする。 ・仏の子として保育者に敬い慈しまれ、安心して過ごす。	